

「うー、蛙：蛙：」呻くマジョリアル。「ど、どうかしたのかい？蛙がそんなに嫌いかい？」心配そうに聞くウイザットに「私：何か思い出せそうなの。蛙に関連したことみたい。でも、やっぱり駄目だわ、未だ思い出せない。」マジョリアルは眉間に皺を寄せたまま答えた。

「そんな顔をしたら折角の美しい顔が台無しだぜ」ウイザットが言う、「兎に角、お嬢さんの記憶が戻らないことは、困ったの。ワシとしては生きていけば丁度お嬢さんくらいの子孫が居る苦なもので、ここに留まってくれれば嬉しい。ここでもあるが、やはりお嬢さんの一族はさぞや心配しているやろつか、一刻も早く記憶が戻ることを望ましいの。」マグワートは顎鬚を指で引つ張りながらそう言った。

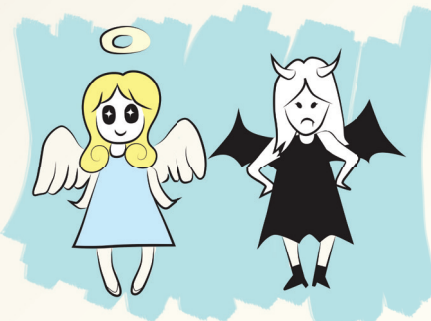
「だよなあ。僕もお嬢さんと友達になれて嬉しいけど、何処の誰か分からないままに良い筈はないもん。僕もお嬢さんが記憶を取り戻す迄は頻繁にここに来ることにするよ。」とウイザットは言て、金色の髪を掻き上げた。

「何？ウシだけだと頻繁には来ないのかな？」マグワートが冗談っぽく膨れて見せると「いや、そんな意味じゃないよ。それよりもさき爺さんが言っていた光組と闇組っていうのは何なんだい？」ウイザットは話題を変えろく慌てそう言った。

「この世には光組と闇組のテナジーがあるんじやよ。この地球と

いう次元は完全なる光の世界ではない。光と闇とが混在し、ある意味それによりバランスが保たれている世界じや。この世には天使も居るが、悪魔も居る。一人の人間の中にも天使の部分と悪魔の部分は存在する。」マグワートの言葉に、「えー？悪魔の部分も？」驚くウイザット。

「そうじや。人間に内在する魂は光の世界と繋がっているが、肉



体があることで、本能という欲望を持つ。それ故、人間には光としての魂と、闇としての欲望が潜在的に存在しておるんじやよ。」マグワートは頷きながらそう言った。

「でもそんなに悪い人ばかりじゃないわ。愛に溢れた人も居るわ。」反論するマジョリアルにマグワートは微笑を返しながら言った。「その通りじや。そういう人は己の中にある欲望、つまりはエゴよりも光にフオローしておるんじやよ。エゴの部分の口ウアーセルフ、光の部

分をハイヤーセルフと言つが、如何にハイヤーセルフの自分として愛を持って生きるか、それがこの世での学びなんじや。」

「そんなこと言つたら、全員を愛するなんて不可能だぜ。どうしても好きになれない奴は居る。」口を尖らすウイザットに「そうじやな、それは仕方がない。けれど、嫌いなままでも愛は送れるんじや。」マグワートが答える。「え？嫌いなままでも愛は送れる？」「そうじや、無理に好きにならなくても、その人の幸せを遠くから祈ることは出来る。」そう言つて、マグワートは更に微笑んだ。

「じゃあ自分に酷いことをした相手の幸せも祈らないといけないのかい？そんなことは無理だよ。」更に口を尖らすウイザットに、「確かに難しい学びじやが、許すことも愛なんじやよ。100%遂行出来なくてもせめてトライすることが大切じや。」マグワートは微笑んだまま言った。「ところで、さき孫が生きていればと言つたけど、お孫さん、亡くなったのかい？聞いて良いことなのかかわからないけど。」ウイザットがそう言つと、「ああ：生まれてすぐにな。ワシが目を離した際にヨロエに：」マグワートの顔からは笑顔が消え、彼は言葉を詰まらせた。「ごめんよ、爺さん、悪いこと聞いちやうたね。」ウイザットは慌ててマグワートの肩に手を置き摩らした。つづく。

※近年、「本能」という言い方はせず「生得的」という語彙が用いられる傾向にあります。ですが、この物語は「本能」を使っています。

## チャネリング相談

**Q** 愛って何ですか？よく「自分を愛せない人は誰のことも愛せない」と言いますが、私は自分のことが大嫌いですし、何なんだあの人は、と誰のことも批判的にしか思えません。どうしたら良いでしょうか。  
(Santa Ana 在住 Eさん)

**A** 愛とは許すこと、受け入れることです。自分を愛するとは長所も短所も全てを許し受け入れることです。人にはハイヤーセルフの面とロウアーセルフの面が必ずあります。100点満点の人はこの世には誰も居ません。自分の駄目なところは駄目なところとして受け入れるのです。自分のことが大嫌いな自分をまずは「よし」とするのです。そして「何なんだあの人は」という人のことも「何なんだ人(じん)」として受け入れるのです。自分はこういう人間である、あの人は「何なんだ人」である、ということを許すのです。それがまず愛の第一歩です。

愛にはそれぞれの形や段階があります。愛は理解することから始まります。何が何でも全てを愛さないといけないという強迫観念から解放された状態で、良い面、悪い面どちらもあるのだなという理解を持つことから始まるのです。

そして完璧な愛以外は愛じゃないと思わないことです。完璧な人間が居ないのと同様に、完璧な愛というものもこの地球レベルでは存在しないのです。

\*宇宙の最上級の世界である EN SOF には完璧な愛は存在する。

そんな中で小さな愛のカケラを拾い集めることこそが、愛なのです。つまり、自分のことが大嫌いな自分の中にも必ず小さな愛のカケラはありますし、「何なんだ人」の中にも必ず小さな愛のカケラはあります。それを拾い集める作業こそが自分を愛すること、人を愛することなのです。

愛とは偉大で高次元な波動ではありますが、実は些細な愛のカケラの集合体でもあるのです。